



Well-being

福山市立幸千中学校
生徒指導だより⑩
2024年3月11日(月)

つなぐ

3月7日(火)に卒業証書授与式が行われ、215名の卒業生が幸千中学校を旅立ちました。卒業式は3年生が義務教育の9年間で地道に積み上げてきた集大成を示す日です。当日は着席の姿勢、ステージ上での佇まいなど最後まで「本当のかっこよさ」を示してくれました。残念ながら、2年生の皆さんは式典に参加をすることができませんでしたが、みなさんにとっても決意の日であったことを願っています。これからはみなさんが幸千中学校を創っていく番になります。先輩方から受け継いだバトンはこれまでの卒業生が大切に繋いできたものです。その重みを実感しつつ、残りの2週間を過ごしていきましょう。



写真左) 卒業記念品として玄関マットが寄贈されました。生徒昇降口に設置されています。大切に使いましょう。

写真中央) 2年生が卒業式の会場準備をしています。イスを並べる作業は一人ではできません。横一列になって息を合わせてイスを並べます。まっすぐ、一つの乱れなく並んだイスは皆さんの心が表れています。

写真右) 1年生が3年生廊下の雑巾がけをしています。床はピカピカになりました！一生懸命な姿は3年生に伝わったことでしょう。



卒業証書授与



卒業生答辞



在校生送辞



学校長式辞

答 辞

暖かい陽光が降り注ぎ、春の気配を感じられる今日の良き日、私たち3年生は幸千中学校を卒業します。三年前の春、私たちは入学しました。環境や仲間も新しくなり、これから始まる中学校生活に、とても胸を膨らませていたことを覚えています。少しずつ環境に慣れてきた九月、新型コロナウイルス感染症の影響で、分散登校が始まり、つらい毎日が続きました。待ちに待った十月、分散登校が終了し、クラスの友達に会えた時のうれしさを、今でも覚えています。マスク着用による生活に不便を感じつつ、学校生活にもしだいに慣れていきました。

2年生で一番の思い出は、修学旅行です。天候に恵まれ、感染症に対するさまざまな規制緩和も始まり、仲間との楽しみを分かち合うことができました。仲間と一緒に二泊三日を過ごすことでの感動など、日々できない経験や、地域特有の雰囲気を感じる活動など、とても貴重な思い出ができました。

3年生での「若鶴祭 体育大会」。年間リーダーを中心に、ダンスの曲や振り付け、練習計画の作成を行い、日々、練習を重ね、友達とのきずなも深まっていきました。ダンスでは、すべての団に、仲間との深い団結がみられ、その演技にとっても魅了されたことが印象に残っています。仲間と共に汗を流した部活動。日々の練習や大会への参加など、その小学校よりレベルアップした活動に、何度もくじけそうになりました。しかし、同じ目標に向かい、切磋琢磨してきた仲間たちに、何度も助けられました。これらのことは、学習の場面でも同じです。授業内容で、分からない内容や問題を、ともに考え、教え合ったり、時には、多様な意見を友達と交流したり、自分たちの見方や可能性を広げていきました。個別の学習だけでなく、班やチームで丸となって学習し、学ぶことの楽しさを、共に感じることもできました。学習のよきライバルとして競争する仲間の存在が、より自分の力を高めてくれました。また、ときには学習に対してあせりを感じた経験もありましたが、これらのことも、今となってはとても良い思い出です。

幸千中学校での生活は、友達と毎日笑い合ったり、時にはけんかをしたりすることもありましたが、絆を深めていく日々でした。ひとつひとつの思い出は、大切な宝物に変わっていきました。中学校卒業後、私たちは、その宝物を胸に、それぞれの人生を歩んでいきます。在校生のみなさん、これからの幸千中学校を支えていくのは、あなたたちです。私たちは、幸千中学校の長い文化であった巨大壁画を終わらせ、新たな文化を探し続けました。ボランティア活動を学年や学校全体で行いました。また、ホロコースト記念館と交流を持ち、記念館からアンネのバラをいただき、学校で大切に育てています。学校の中にとどまらず、地域の施設や地域の人たちと協働し、幸千中学校の新しい文化の基盤を作ることができました。在校生のみなさん、この基盤を、より輝かせ、よりすばらしいものにして下さい。より良い幸千中学校を創っていくのはみなさんです。このような私たちについてくれた後輩のみなさん、本当にありがとう。そして、中学校生活では、つらい時や逃げ出したいときもありました。そんな時、私たちには、いつも先生が寄り添ってくれました。その先生方の言動に、何度も助けられたり、励まされたりしながら、前に進むことができました。本当にありがとうございました。そして、私たちの一番身近で、いつも、私たちを支えてくれた家族のみなさんには、感謝をしてもしきれません。この三年間の中学校生活を送れたのは、家族のみなさんのおかげです。思春期で、普段言えない言葉ですが、この場を借りて、三年生みんなを代表して言わせてもらいます。「いつもありがとう。」「本当に感謝しています。」これから、何度も迷惑をかけることがあるかもしれませんが、しかし、いまの感謝の気持ちは、これからも大切にしたいと思います。

最後になりましたが、こんなにすばらしい友達、先生、そして、家族に支えられて、私たちは本当に幸せだと感じています。みなさまのおかげで、本日の卒業を迎えることができました。今まで、出会ったすべての方々に感謝し、答辞といたします。

二〇二四年(令和六年)三月七日

卒業生代表 山元聡真